

平成 30 年度 なごや小学校 努力点推進計画

1 研究主題 なかまとともに 感性輝く なごやっ子 (1 年次)

2 研究主題について

本校では、昨年度までの努力点研究において、道徳や特別活動の時間を中心に、子ども一人一人の成長と互いの認め合いをめざすことで、子ども自らが「なごや小でよかった」と感じられるような研究を進めていきた。その中で、「今までより友達が増えてよかった」「友達のよいところをたくさん知れてよかった」などの声も聞かれるようになり、一定の成果を得たものとする。

本校は、平成 31 年度に全国造形教育連盟と日本教育美術連盟による合同研究大会の会場校となっている。「感性豊かに 共に生きる」を大会全体のテーマに、本校もその取り組みを全国に発信することとなる。「感性」は、様々な対象や事象を心に感じ取る受動的な働きを指す場合もあるが、図画工作科では、新しい意味や価値を創造していく能動的な意味も重要となる。「感性を豊かに働かせて、造形的な資質や能力を発揮している」姿を目指して、全国に発信していきたい。

本校の図画工作科での子どもの様子を見てみると、「図画工作が好き」「図画工作は楽しい」という声が出る反面、「どう、描けばいいですか」と教師に聞きに来たり、「下手だから見られたくない」と友達の作品と比較する中で、自分の表現に自信がもてずいたりする姿が見られる。「私の作品は、友達と比べて下手だ」とか「人はこのように描かなければいけない」など考えながら表現しているのは、感性を豊かに働かせて表現しているとはいえない。

本校の学校教育目標は、「豊かな人間性と未来を切り拓く行動力をもつ児童の育成」である。図画工作を通して、感性を豊かに働かせて表現することは、「豊かな人間性」を育むことにつながる。主体的に表現することは、「未来を切り拓く行動力」を育むことにつながる。これらのことから、図画工作の授業の充実を図ることは、なごや小学校の学校教育目標に沿っているだけでなく、昨年度までの学校努力点の成果として得た子ども同士の関わり合いの中で、互いの発想や表現のよさに気付くことも期待される。

そこで、本年度は、「なかまとともに 感性輝く なごやっ子」を主題に掲げ、図画工作科の表現及び鑑賞の場において、友達との関わりを生かして、子どもたちの感性を存分に引き出し、主体的に造形活動に取り組めるよう授業作りをしていくことで、本校児童の資質や能力を十分に育んでいきたい。

育みたい造形的な資質・能力について (3つの柱)

【知識及び技能】

対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して、理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。

【思考力・判断力・表現力】

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができる。

【学びに向かう力・人間性等】

つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

(1) 目指す子ども像とその視点

○ 「いいこと思いついた」とよりよい表現を思い付く子ども

○ 「もっとよくしたい」とよりよい表現を追究する子ども

これら2つの姿を、表現及び鑑賞の場面で子どもたちが見せたとき、子どもは感性を豊かに働かせて、造形的な資質や能力を発揮していると捉える。

(2) 研究の重点

目指す子ども像に迫るために、以下の2点の手立てを重点に研究を進めていく。

◆授業における手立て

- ・育てたい資質や能力（めあて）を明確にする手立て

図工ファイルの作成 ワークシートや鑑賞カードを綴じていく。 **共通手立て**

- ・友達との関わりの中で、表現を思い付いたり、追求したりできる手立て

◆日常における手立て

- ・環境づくり(学年・異学年での作品交流) 掲示板活用

- ・材料BOXの設置 **共通手立て**

(3) 具体的な進め方

① 子どもの実態を把握する。(1学期中)

- アンケート、観察、聞き取り等により、の図画工作についての意識調査を行い、どのようなことに課題があるかを把握する。

② めざす子ども像を学年で設定する。

- それぞれの部会で、子どもの実態に合わせてめざす子ども像を設定する。
上述した目指す子ども像に迫るための2つの視点を、学年の実態に合わせて具体的な姿で設定する。

③ 各学級2実践の授業を公開する。(1学期1題材、2学期プレの題材)

- めざす子ども像に迫るための活動を明らかにした実践を行い、簡単な指導案を作成(略案)して実践を公開する。(プレ題材は細案で)

授業公開に当たっての留意点

- ・ 指導案は、授業の前日までに全職員に配布する。
- ・ 公開授業は、基本的には学年部会で見合うこととするが、時間が合えばどの学級の授業を参観してもよいこととする。
- ・ 事前、事後の検討会は、学年の努力点担当が中心となり、それぞれの学年部会で時間を設定して行う。

④ 指導力向上のために全体授業研究の場を設定する。

- 手だてやねらい、指導の流れを明らかにした細案を作成して実践を公開する。
- ※ 授業公開は、1学期2（示範授業）、3学期1とする。
- ※ 3学期代表授業者は、全体会の後で決める。

⑤ 子ども像にどれくらい迫ることができたかを検証する。

- どの場面でどのように判断するのかを考える。
- 子ども像のどのような姿から判断するのかを考える。

⑥ 1年間を振り返る。

- 実態調査を行う。(2月)
- 成果と課題を明らかにする。
- 課題を克服するための改善点を明らかにする。
- 最終報告書の作成

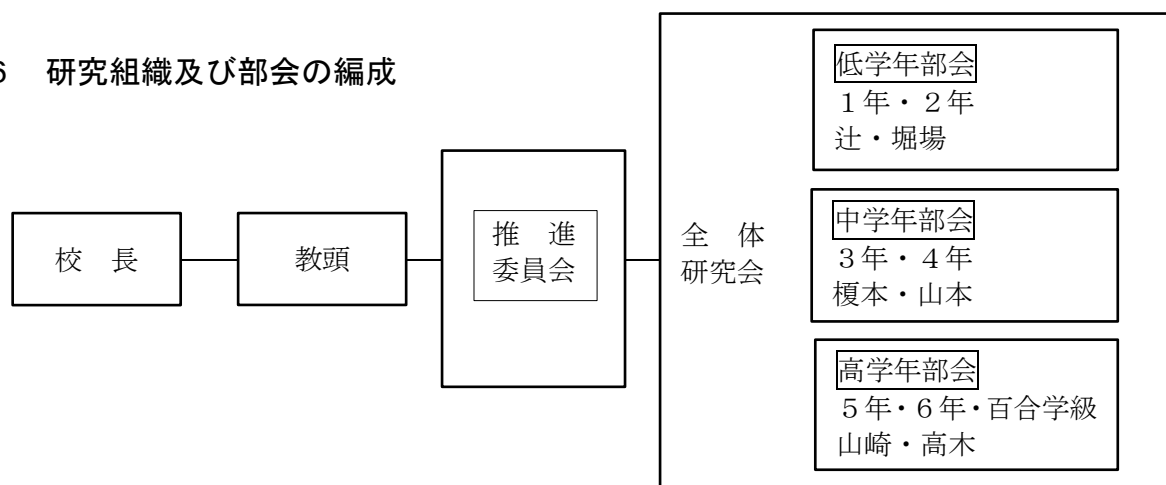
4 年間計画 (今後、変更がある場合があります)

1学期	4月 3日 (火) 努力点推進委員会 4月 5日 (木) 努力点全体会① 5月 31日 (木) 示範授業① (事後検討会) 6月 14日 (木) 示範授業② (事後検討会) 7月 20日 (金) までに 実態調査、学年でめざす子ども像の設定 ※ 現職教育を1回程度
2学期	9月 29日 (土) 公開授業実践 土曜日授業参観 10月 22日 (月) 努力点全体会④ (中間報告会) ※ 現職教育を1回程度
3学期	1月 17日 (木) 努力点全体会⑤ (全体授業事前検討会) 1月 24日 (木) 努力点全体会⑥ (全体授業・事後検討会) 2月 28日 (木) 最終報告会

5 推進方法

- (1) 推進委員会において、努力点の基本方針や内容、手立て、今後の推進方法について検討する。
- (2) 全体研究会において、努力点目標の推進に向けて共通理解を図ったり、各学級の推進の様子を報告したりする。
- (3) 低・中・高学年部会で、学年の実態に即した目標や内容を明確にし、努力点推進の様子に関する具体的な実施計画を行う。

6 研究組織及び部会の編成



努力点について

低・中・高 学年部会

学年の目標

- 低学年 友達と楽しく関わることを通して、造形的な面白さや楽しさ、表したいことや表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることができる。
- 中学年 友達と進んで関わることを通して、造形的なよさや面白さ、表したいことやいろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることができる。
- 高学年 友達と主体的に関わることを通して、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。

上記をもとに、各学年の実態に合わせた目指す子ども像を設定してください。（7月20日まで）

目指す子ども像

・手立て

前期 授業公開の予定（同じ題材で構いません。）

学 級	名 前	実践する題材	公開する時期
			月 日
			月 日
			月 日

確認ですが・・・

- ※ 指導案は、授業の前日までに全職員に配布してください。
- ※ 部会の推進委員を中心に、低・中・高学年で事前・事後検討会をもつようにしてください。
- ※ 公開授業は、学年部会で時期がなるべく重ならないように調整の上、実施します。
- ※ 参観は、基本的には低・中・高学年部会それぞれで行います。

図画工作アンケート 年 組 名前()

- はい 1 — 2 — 3 — 4 いいえ
1. 絵をかいたり、工作をしたりすることは好きですか？
 2. 絵をかくときに、さんこうにしていることに○をつけましょう。
 - 3.